

里山倶楽部活動記録

と き：平成 26 年 4 月 12 日（土）13.30～16.00

ところ：桂広場

参加者：30 名以上（世話役は幹事の天津 影山 田畑 藤田 最上のほか、千葉、上野、三石、藤田夫人、南出、堀その他）小学生や親子連れなど正確には把握し切れていない。

内 容：①キノコのホダ木製造と整理・・・コナラ材を用意してドリルで穴を開け、子供たちに菌を植え付けてもらう。すでに製造済みのホダ木をコナラ、サクラ、ヤマナラシの別に仕分けして整理した。

②栗の木の剪定・・・中央に立っているシバグリの木の太枝を切る。これまで実はなっていたが収穫する状態ではなかった。今後に期待する。

③たき火・・・中央の暖炉に火をつけて枯れ木を燃やす。大量の竹葉をはじめ、散乱していた枯れ木をすべて処理した。お蔭で広場がきれいになった。子供たちは日ごろ許されていない、やる機会のない「火遊び」に興じて大いに盛り上がった。たき火の終わりにはジャガイモを入れて焼き、みんなで頬張った。

④山菜のテンプラ・・・あらかじめ用意されたセリ、ニワトコ、ヨメナ、ヨモギのほか、その場で収穫したシイタケやタラの芽も加えてテンプラに揚げた。特に男の子たちがよく食べたのは驚きだった。大人たちみんな、はじめて食べる山菜に舌鼓を打っていた。

⑤ノビル（野蒜）・・・藤田さんが用意してくれたノビルのみそ和えは大好評だった。こういう何でもない伝統食を味わえたのも収穫である。

⑥ギボウシの芽（ウルイとして売られている）も会員に持参していただいて酢味噌で味わった。自然の恵みを色々いただけるのは喜びである。

（所見）比叡平は目下サクラの花盛りで三品邸は門戸開放。そのすぐ横で開催したイベントは大いに盛り上がった。気候はよし、参加者は多しでいい気分である。「火を燃やす」ことがいかに大切なことかよくわかった。

（以上 文責田畑）

